

第7回 滝沢昌之 フルートリサイタル

Philippe Gaubert

Flute work all tune concert

フィリップ・ゴーベール フルート作品全曲演奏会 [全3回]

Vol. 2



1879年に、フランスのカオールで生まれた。7歳でパリへ出て、1890年にポール・タファネルの弟子となる。15歳でパリ音楽院のフルートの一等賞を得る。"フィリップ・ゴーベール" この名前は決して消えない。演奏家、指導者、指揮者、作曲家…。憧れ、頂に望む、大きな大きな、"存在"である。

2014/10/5(日)

14:30開演(14:00開場)
スタジオ・フリッツ・ナタン

滝沢昌之[フルート] 古賀なつみ[ピアノ]
GUEST
永野紗佑里[チェロ]

Program Note

バラーデ Ballade -Fl.Pf-

1928年。「バラーデ」を作曲した当時、ゴーベールはパリ音楽院フルート科教授、オペラ座首席指揮者、パリ音楽院管弦楽団首席指揮者などを務め、多忙な日々であった。題名の上に「我が生徒たちへ」と記され、彼の温かい人柄の伝わる作品。

水の上にて Sur L'eau -Fl.Pf-

1910年。水面の波紋を想像させる荘厳さ、水上を舞うような華麗さ、といった細かい表情が描き分けられている。

3つの水彩画 Three Water Colors -Fl.Vc.Pf-

1926年。

I. 「明るく晴れた朝に」 ピアノのさざ波の様な細かい音形にフルートとチェロがユニゾンで清々しい旋律を奏で、旋律線が緩くなって応答し合う。中間部はピアノの大きな分散和音の波にのり、フルートとチェロの美しい旋律が映える。

II. 「秋の夕べ」 田園風のメランコリックで緩やかなメロディーが淡い色彩のハーモニーの上に漂う。中間部は静かな風(なぎ)となり、徐々にメロディーが高揚し、後半ではフルートとチェロがユニゾンで朗々と奏でる。

III. 「セレナード」 スペイン風舞曲。リズムカルな伴奏リズムにフルートとチェロが楽しく、愉快に踊り、中間部はラヴェル風のピアノの分散和音の伴奏音形にフルートとチェロが加わりユニゾンで美しいセレナードを歌う。

休憩 (15分)

ロマンティックな小品 Piece Romantique -Fl.Vc.Pf-

1926年。単一楽章の「ロマンティックな小品」はオペラ座の友人に捧げられた。3小節のピアノ前奏に導かれまろやかなチェロのメロディに誘われ、フルートがその楽句の模倣を重ね、美しい響きの旋律線の緩やかさを聴かせる。中間部はフルートのシチリアーノとなり、後にチェロが模倣し加わる。最後はチェロの旋律の再現とフルートのシチリアーノが絡み合い、曲を閉じる。

マドリガル Madrigal -Fl.Pf-

1908年。この曲は医学アカデミーの博士に捧げられており、アマチュアのフルーティストのために書かれた作品ではないかと思われるが演奏は決して容易ではない。ピアノのアルペジオに乗って歌い出されるフルートの旋律は、滋味深い情緒を湛えている。

ノクターンとアレグロ・スケルツァンド Nocturne et Allegro Scherzando -Fl.Pf-

1906年。ゴーベールのフルート作品の中で特に精気あふれた作品かもしれない。ノクターンの部分ではフルートのロマンチズムがリズムとハーモニーの精妙な絡みから映し出され、アレグロ・スケルツァンドはフルートの持つ軽やかさが感興の高まりと共に表現されている。

ソナタ第1番 Sonate -Fl.Pf-

I. Modere II. Lent III. Allegro Moderato

1918年。副題に「師タファネルを追憶して」とある。第1楽章は流動的な光明を持つ主題と、ゆったり上昇する副主題と、軽妙な展開部が紡ぎ合わされている。第2楽章はゴーベールの目指したベルカントの音色を思わせ、第3楽章は問いかけのような主題を軸に展開し、冒頭の部分を回想して静かに曲を終える。

Philippe Gaubert

フルートへの愛を満たすゴーベールの音楽。
甘美な旋律とエスプリ香る和声に胸躍り、
その言葉の根ざす想いは心の隅々まで染み込まれる。



滝沢昌之(フルート)

10歳よりフルートを学ぶ。大阪で若林正史、札幌で松原悠久両氏に師事。東京都立駒場高等学校卒業。国立音楽大学器楽科フルート専攻卒業。石原利矩氏に師事。大学卒業後、デンマーク王立音楽院教授、T.L.クリスチャンセン氏に師事するため、コペンハーゲンへ留学。デンマーク王立音楽院にてイスラエルの打楽器奏者のデビューリサイタルで共演。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマ取得。野口龍氏に師事。金昌国、P.L.グラーフ、T.ワイ、P.マイゼン、瀬尾和紀、大村友樹各氏にレッスンを受ける。'06年より福岡を中心に、ソロ、室内楽の演奏活動、後進の指導を行う。'07年より筑紫野カメロコンサート音楽ディレクター。'09年より毎年リサイタルを開催。多種多様な自主公演を独創的なコンセプトで展開している。アコルデ音楽企画代表。



古賀なつみ(ピアノ)

8才よりピアノをはじめ。桐朋学園大学音楽学部演奏学科を卒業後、パリ市立コンセルヴァトワール、パリ・エコールノルマルにてディプロマ取得。フランス、ポーランド、各都市にてコンサート出演。ポーランドの国民的ピアニスト、故バルバラ・ヘッセ=ブコフスカ女史にその才能を認められ、'04年から1年半ブコフスカ女史邸宅にて住み込みで研鑽を積む。同女史監修のもと開催される夏の国際音楽祭「ショパンと過ごす夏」(BuskoOZdrojSポーランド)に招かれ'05年より'12年まで毎年ソロリサイタルで出演。先日地元福岡でラズモフスキーカルテットとフォーレのピアノクインテットを演奏し、好評を得て、新聞に掲載された。これまでにピアノを永田瑛子、永江泉、村上弦一郎、竹内啓子、D・ジョフロワ、ジャンマリ・コテ、B・ヘッセ=ブコフスカの各氏、室内楽を藤井一興、鈴木良昭の各氏に師事。現在、後進の指導を行う傍ら、ソロリサイタル、アンサンブル、伴奏等で演奏活動中。

Guest



永野紗佑里(チェロ)

宮崎県宮崎市出身。3歳よりピアノ、9歳よりチェロを始める。東京音楽大学付属高校を経て、東京芸術大学音楽学部を卒業。第13回宮日音楽コンクール最優秀賞及びグランプリ及び全日空ヨーロッパ賞受賞。第20回京都フランス音楽アカデミーに室内楽で受講、選抜による受講生コンサートに出演。第31回、第32回霧島国際音楽祭にて堤剛氏のマスタークラスを受講。これまでに、チェロを土田浩、刈田雅治、菊地知也の各氏に、室内楽を岡山潔、河野文昭、松原勝也、佐々木亮、鈴木理恵子、大友肇の各氏に師事。現在、福岡を中心に演奏活動中。

クレモナ楽器

秋の管楽器 SUPER SALE!!

10月4日(土)~11月16日(日)

地下鉄赤坂駅3番出口より徒歩2分
昭和三通り沿い あいふふ東口交差点

音楽といつも素敵な関係でいたい

クレモナ楽器

〒810-0041 福岡市中央区大名2丁目10-24
営業時間/10:00~19:00(日・祝日10:00~18:00)
定休日/水曜日 FAX 092-761-8382
☎092-713-5303(代)
e-mail cremona@mx21.tiki.ne.jp
http://www.cremona-gakki.com